



第12話 嬉しさと責任感

6月議会で私から提案した交通のセミナーが実現することになり、10月8日に開催されました。当日は市町村職員や企業の方など多方面から120名ほどが参加されて、国の制度や他県の先進事例などを学び、私もとても勉強になりましたし、参加者それぞれの地域交通の取り組みの参考にできたのではと感じました。議員として自分の意見が採用されることは嬉しい反面、よい事業になり得るだろうかと責任も感じま

すが、これからもよりよい一歩を模索したいです。



9月議会の傍聴に来た皆さんと、お弁当を食べながら議会のお話もできて嬉しいひと時でした。

議場に赤ちゃん

イラスト:森シホカ



おおつかあいプロフィール
1974年1月10日生まれ。旭操小学校、操南中学校、岡山朝日高校、岡山大学教育学部卒業。99年より福島県で農業研修。4年間の大工修業の後、自宅を建て、大工として働く。2011年3月福島原発事故により一家で岡山に避難。5月「子ども未来・愛ネットワーク」を立ち上げ、避難移住者のサポートや福島の子どもの保養受け入れなどを行う。北区建部町に夫、3人の子どもと暮らす。2016年から県議会議員。

大塚愛 いっぽ通信

岡山県議会議員
大塚愛 県政レポート [第12号]
発行: 2019年10月(2019年9月議会報告)
最新情報を発信しています
Facebook:
・みどり岡山
www.facebook.com/greenokayama
・大塚愛
www.facebook.com/ohtsuka.ai.3
・みどり岡山ホームページ:
http://midori-okayama.org

[事務所]
〒700-0971
岡山市北区野田5-8-11
Tel:086-244-7721
Fax:086-244-7724
e-mail:info@midori-okayama.org
http://midori-okayama.org/
[自宅]
〒709-3122
岡山市北区建部町吉田321
携帯:070-5056-3808
e-mail:ai.raku@shokan.jp

大塚愛

県政レポート(2019年10月発行) [第12号]



いっぽ通信

P.02-03 減災のために、温暖化防止の啓発を。

P.01 「気候変動に対策を!」グローバル気候マーチが岡山でも開催。

P.02-03 おもな活動記録から「給食センターの暑さをチェック」

P.04 愛ちゃんがゆく! — 県議体験記 — / 日々のうごき (2019年7月~10月)



みなさま、こんにちは。
西日本豪雨の起こった昨年につづき、今年も災害の多い夏となり、新見での豪雨や台風15号、19号による東日本の被害など、「記録的」な災害に見舞われました。
災害が少ないと言われてきた岡山でも、災害はいつどこで起きてもおかしくないものとして、身近な防災意識を持つようになった方も多いのではないでしょうか。
また、なぜ異常気象が増え

てきているのかと考えると、やはり地球の温暖化のことが頭をよぎります。
地球温暖化が叫ばれ始めて、はや30年が経ちますが、近年、温暖化による影響は目に見える危機として迫ってきました。
先月開かれた国連の温暖化対策サミットでは、16歳のグレタさんが各国の代表を前に演説しました。
「生態系が崩壊しつつ、大



9月20日に世界で連動して開催されたグローバル気候マーチ。主催者の大学生は、初めてのマイクでのコールに、思いを込めて頑張っていました。



新見へ豪雨災害の泥だしのお手伝いに行きました。大きな災害を受けた人達にはボランティアの活気が不可欠だと感じます。

量絶滅の始まりにいるのに、あなたはお金や永遠に続く経済成長というおとぎ話ばかり。私たちはあなた方を見ています。ここから逃れることを許

しません。」
このグレタさんの言葉を受けて、若い世代が動き出し、9月20日には世界185カ国でグローバル気候マーチが開催されました。
岡山でも大学生が中心となって同マーチが企画され、当日は小雨の降る中、駅から市役所通りを歩き、「気候変動に一刻も早く対策を!」と声をあげました。
人口減少、少子高齢化など地域の足元の課題とあわせて、そもそも人間の暮らしを包む地球環境というものに意識を向け、環境保全に新たな価値を見出すことが、いま求められているのではないのでしょうか。

日々のうごき

- 2019年7月~10月
- 7.23~ 環境文化保健福祉委員会県外調査 @北海道 宮城
- 7.27 保育園連合PTA研修会、御津夏祭り
- 7.28 みどり岡山総会、ソーラージャリング勉強会@エネミラ
- 7.29 ログハウス活用検討会@美咲町、いっぽプラス収録
- 7.30 加茂川ホリデイフォレスト
- 8.1-2 常任委員会県内調査@
- 8.3-6 家族と夏休み
- 8.7 常任委員会県内調査@笠岡
- 8.8 虎倉ファーム見学、香川vs岡山県議会対抗野球@マスカット球場
- 8.10 常任委員会(環境文化保健福祉)、個人懇談@後楽館中学校、バクチャー奉納祭@備前総社宮
- 8.11 建部町納涼花火大会
- 8.14 竹枝夏祭り
- 8.17 福島の今を伝える @シンフォニービル
- 8.18 あるもんde食事会 @福渡コミュニティ
- 8.20 常任委員会県内調査
- 8.21 人間ドック、DV被害者等医療者向けガイドライン勉強会
- 8.22 たんぼネットワーク意見交換会@吉備公民館
- 8.23 常任委員会、自治体議員研修会@高松(~24)
- 8.25 奉仕作業@竹枝小、犯罪被害者支援勉強会@VSCO
- 8.26 たけべ部、立憲自治の会世話人会
- 8.27 県政市政おはなし会@岡輝公民館

- 8.29 常任委員会、セルフプラン(障がい者の避難計画)作成中間報告会
- 8.30 特別委員会(総合計画・行財政改革)、まちづくり推進機構岡山総会
- 8.31 空き家見学@御津五城
- 9.3 心の病気を学ぶ授業@附属中学、里親制度のヒアリング@中央児相
- 9.4 建部学校給食センター視察
- 9.7 御津学区敬老会、夜間中学校をつくる会「学ぶ」上映会
- 9.8 御津南敬老会、療育まつり@岡輝公民館、市民のつどい分科会、森づくりサポートセンター報告会@建部文化センター
- 9.9 9月議会開会
- 9.10 性犯罪被害者支援ヒアリング@VSCO
- 9.12 代表質問に登壇
- 9.13 災害ボランティア活動@新見
- 9.14 国労定期大会、幼保ミーティング、夜間中学を求める署名活動@西口、シェルターモモ10周年シンポジウム、お月見会@御津河原邸
- 9.15 道作り(秋祭りのための草刈り)、岡山晴れの国市@Scre
- 9.16 フルーツフェスティバル@御津くぼ農園
- 9.17 敬老会@富沢老人クラブ、障がい者ワークフォーラム
- 9.18 一般質問(~26までの5日間)

- 9.19 竜墨書道会展&「スツションチョンで行く!」、国体社行式
- 9.20 読み聞かせ@竹枝小、グローバル気候マーチ@岡山駅~市役所
- 9.21 飛翔祭@建部中、B&G芋煮交流会しまいッソジウム@御津公民館、
- 9.22 御津将棋大会打ち合わせ、上映会&大西監督講演 @スローカフェたんぼ
- 9.23 子どもと山登り@龍ノ口山
- 9.24 みどり岡山会議
- 9.26 次女5歳誕生日
- 9.27 特別委員会、文化祭@後楽館中学
- 9.28 竹枝小学校・保育園運動会
- 9.29 移住相談会に参加@大阪
- 9.30 常任委員会、執行部vs県議会野球
- 10.1 食品ロスを考える会@建部公民館、福渡病院訪問、同期議員懇親会
- 10.2 人事委員会ヒアリング
- 10.3 9月議会閉会、県議会ナビ収録@OHKスタジオ
- 10.6 吉備高原フェスタ&みどりの大会 @きびプラザ、日野公三氏発達障害の研修会
- 10.7 介護予防フォーラム、たけべ部
- 10.8 交通セミナー、福島原発おやかま訴訟
- 10.9 だっぴ@附属中
- 10.10-11 特別委員会県外調査@京都・福井
- 10.12 ジビエBQ@吉備中央町、車いすふれあいロードレース開会式
- 10.13 秋祭り(建部町吉田、七社八幡宮)
- 10.15 常任委員会、東備消防組合裁判傍聴
- 10.16 特別支援教育の懇談会、Watoto夕食準備

9月議会代表質問
(2019年9月12日)

会派を代表して質問した15のテーマから

温暖化防止について

Q. 地球の気温は産業革命前から約1度上がり、世界各地で気候変動が顕在化し、国内でも異常気象が増えていることが懸念される。そしてこの問題には、温暖化ガスCO₂の排出が大きく影響していることが指摘されている。

もし今のままの経済活動を続けた場合には100年後に4度前後の上昇が予測され、洪水や干ばつ、異常気象の頻発、生物多様性の変容、感染症の拡大などが予測されている。また、気温上昇を2度に抑えるために

新エネルギーの普及とソーラーシェアリングについて

Q. 「新エネルギービジョン」では、新エネルギーによる発電量の割合を2020年度までに21.1%とすることを目標にしているが、進捗と今後の取り組みは?

A. 2017年度末で8.5%。エネルギー自給を目

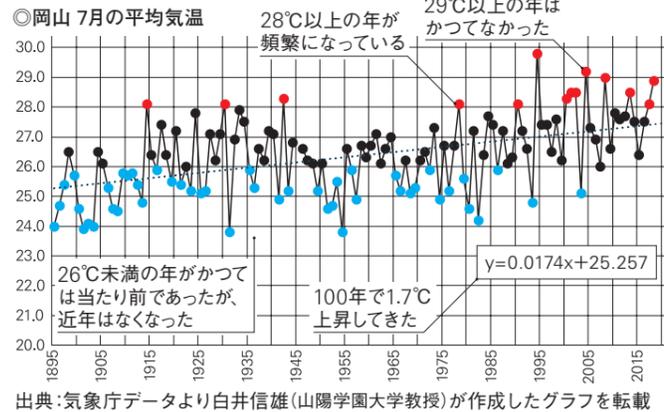
は、今世紀後半までにCO₂排出を正味ゼロにしなければならないとされている。岡山県では、国の目標に沿って、2030年度までに17.7%を削減目標としている。

私たちの未来に関わる重要な環境問題である温暖化防止について、知事はどうお考えか。また、今後は減災の観点からも普及啓発を進める必要があると思うが、目標達成に向けてどう取り組まれるか。

指す市町村の取り組みなどを支援していく。

Q. 晴れの日に恵まれた岡山県は、太陽光や太陽熱を利用しやすく、今後は農地や建物の屋根への普及や、蓄電池を活用した発電、太陽熱の活用を促進す

すき間のあるパネルの下で稲も育ちます。写真:農林水産省「営農型太陽光発電取組支援ガイドブック」より



出典:気象庁データより白井信雄(山陽学園大学教授)が作成したグラフを転載

A. 地球温暖化は自然災害などのリスクを高め、社会・経済に与える影響も大きく、その進行を抑えるのは、喫緊の世界的課題だ。目標達成に向けて、省エネ機器やEV導入を促進し、環境学習を図っていく。

るのがよいと考える。農地の上に太陽光発電パネルを設置する「ソーラーシェアリング」は、全国的に許可件数が増えており、2018年3月末で1,511件となっているが、本県ではわずか2件(都道府県別ワースト3位)で、制度

の周知が必要ではないか。
A. 中長期的な営農計画が必要なため、導入を希望する農業者に対し、普及指導センターで栽培方法や経営計画などへの助言を行っていく。

里親委託の推進について

Q. 社会的養護の必要な子どもが家庭的な環境で育てられることは、安定した人間関係を築いたり、家庭的な生活や就労の姿を学んだりするために重要である。県では2013年より児童相談所の体制強化を進めてきた結果、里親委託率は16.8%(2013年)から32.7%(2018年)まで向上させ、全国平均19.7%(2017年末)を大きく上回っている。

里親の登録数を増やしていくためには、里親の制度を広めるネットやマスメディアを活用した普及啓発が重要であり、一時里



親*による委託は、親戚のように関わりをもてる大人を増やすという点や、養育里親のレスパイト(一時休養)のためにも有効だ。今後どのように進めるのか。

里親出前講座については中央児童相談所(086-235-4152)へ。

A. メディアを活用した広報や出前講座で、一時里親をふくむ里親制度の周知をはかり、丁寧なマッチングや委託後の支援を行っていく。

*一時里親……児童養護施設で暮らしている子どもを、夏休みなどに2泊ほど家庭に迎え入れ養育する里親。

空き家対策の推進について

Q. 2013年の調査によると、県内の空き家は約14万戸で、6戸に1戸が空き家という状況。岡山県空家等対策推進協議会が作成した空き家ガイドブックは、空き家の扱いに関する情報が分かりやすくまとめられているので、空き家所有者への周知や活用を進めてはいかかがか。

A. 市町村窓口で配布したり、ホームページに掲載しているが、より効果的な活用を検討していく。

Q. 市町村空き家対策モデル地区事業では、空き家マップ作成や空き家改修のワークショップなどを行っており、地域の力を高める活動になっている。空き家を具体的な活用につなげるためには、



会派8人の意見をまとめて行う代表質問は、一般質問より重みを感じます。

移住者受け入れの取り組みと連携したり、おかやまCOC+推進協議会*や地元の高校との連携を図り、建築を学ぶ大学生や高校生などに参画してもらうこともよいと思うが。

A. 具体的な活用へ繋げることが課題となっているので、移住者受け入れの活動や、大学生などの参画も検討して、取り組んでいく。

*おかやまCOC+……県立大学を拠点として県内の9大学が連携して、様々な地域課題に取り組む事業



空き家の情報を集めて書き込む「空き家マップ」を作成。写真:岡山県住宅課

障害のある人の避難行動「セルフプラン」作成推進事業取組状況中間報告会に参加

@生涯学習センター(8月29日)
障がいがある人の避難計画を作る仕組みづくりのために、視覚、聴覚、重度心身、発達など様々な障がいをもつ方数十名が、障がい者団体の協力を得ながら、モデル的にそれぞれの計画作りを進めてこ

られました。報告会では、当事者ならではの視点で、配慮してもらいたい点や、行政や地域など支援側に求めること、フォーマットの改善点など、様々な意見が出されました。個人情報への配慮も考えるべき課題となっていますが、この取り組みを通して、支援が必要な方のニーズが見える化し、市町村の地域防災に活かし、障がいのある方が少しでも安心して避難行動に踏み出せるようになったらと思います。

おもな「活動記録」から

[受託団体]NPO岡山県自閉症協会/社福岡山県視覚障害者協会/岡山県重症心身障害児(者)を守る会/公社日本オスミー協会岡山県支部/岡山県知的障害者福祉協会/一社岡山県手をつなぐ育成会/公社岡山県聴覚障害福祉協会/公社岡山県難聴者協会/岡山県肢体不自由児者福祉協会/NPO津山市障害者福祉協会/岡山盲ろう者友の会

給食センターの視察

@建部学校給食センター(9月4日)

年々暑くなる夏、調理室の環境が暑くて大変という声をお聞きし、2学期初めに視察に伺いました。到着すると、給食特有の美味しい匂いにとりまされたが、分厚い調理服に着替えて、調理をされ

ている大きな鍋の近くまで行くと、ムワッとした暑さを感じました。熱中症対策用の温度計で測ってみると、大鍋や保温コンテナの近くなどでは、ずっと警戒レベルを指しており、そこで数時間の調理をするのはかなり過酷な状況だと思いました。文科省の基準では、「25度以下に保つよう努める」とありますが、実際には30度を超える日が何日もあります。猛暑の対策として、学校にはようやくエアコンが導入されてきたところで

すが、給食センターの環境についても改善する必要があります。



7月と9月は30度以上の暑い日が多くなります。